



Agri Note 菜園

アグリ ノート菜園情報



JA福井県

11月の始まりとともに木々の葉も色づき始め、秋の終盤を迎えています。
今回紹介するのは、小さな子どもから大人までみんなが大好きなイチゴです。春になると真っ赤な甘い実をつけ、見た目も可愛らしく、菜園でぜひ栽培したいもののひとつです。

【イチゴの特徴】

イチゴは甘くておいしいだけでなく、ビタミンCをはじめ、葉酸、食物繊維などの栄養素を多く含んでいます。特にビタミンCが豊富で、1個あたりの含有率はレモンやミカンよりも上。大粒のものなら約5～6粒で大人が1日に必要なビタミンCをまかなえてしまうほどのです。

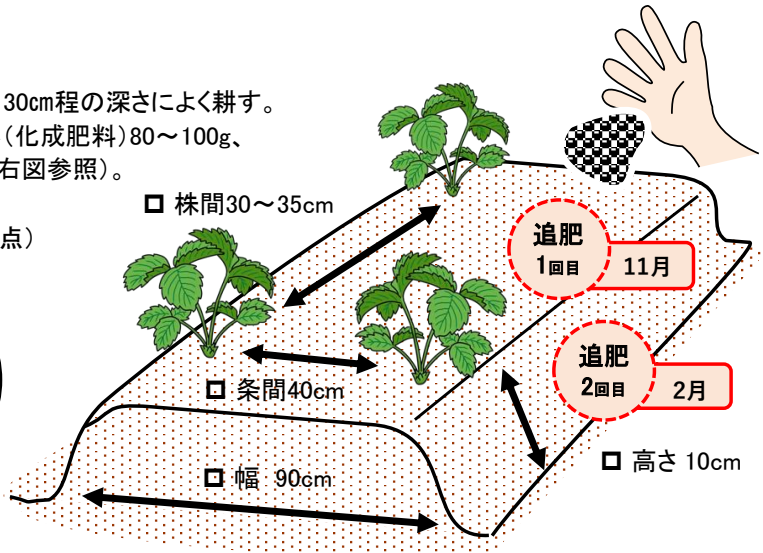
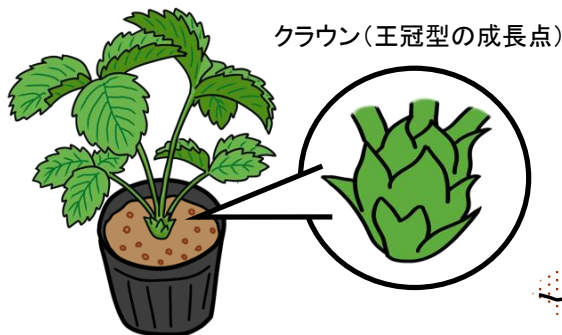
栽培暦（露地栽培）…秋に植付けて越冬させ、収穫まで半年以上かかります。



9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	植付け	追肥①			追肥②			収穫	

1. 土づくりと植付け

- 植付け2週間前: 苦土石灰100～150g/㎡まいて、30cm程の深さによく耕す。
- 植付け1週間前: 1㎡あたり完熟堆肥3kg、あさひ(化成肥料)80～100g、油かす50g、ようりん50gを土に混ぜ、畝をつくる(右図参照)。



- 深植えすると生育が悪くなるので、クラウン(株元のふくらんだ部分)が土に埋まらないようにする。
- ランナーが残っている苗は、ランナーを畝の内側に向けて植えると通路側に実がなるので、収穫作業が容易。
- 植え終わったら根元にたっぷり灌水する。苗が活着するまでは定期的に灌水する。

2. 追肥

1 1回目の追肥は、活着して盛んに生育し始める。
11月上旬～中旬にそさい5号20～30g/㎡を株元から10～15cm離れたところに施し軽く中耕する。

2 2回目は、越冬した2月上旬～中旬。1回目と同量を施す。畝の肩部分に肥料をまいて、通路の土をかぶせる。

3. 2回目追肥後のマルチ張り

- 地温を高めたり雑草の発生を抑える効果や、実が地面に直接触れたり泥の跳ね返りで病気になるやすくなるのを防ぐ効果がある。

【マルチ張りの手順】

- ① イチゴの株の上にマルチをかける。
- ② マルチの周囲に土を寄せて、風で飛ばされないようにする。
- ③ マルチが盛り上がっているところ(株の位置)にカッターで切れ込みを入れる。
- ④ 穴を広げて、葉を折らないように株を取り出す。

4. 葉かき

- 病気がひろがる原因となるため、病気の葉や枯れ葉は適宜摘み取る。